

天の川と七夕

～ 星空にかかる美しい光のおび ～

7月になると、21時過ぎには天の川が見られるようになります。そして、7月といえば七夕。今回は天の川と七夕の星について見てみましょう。

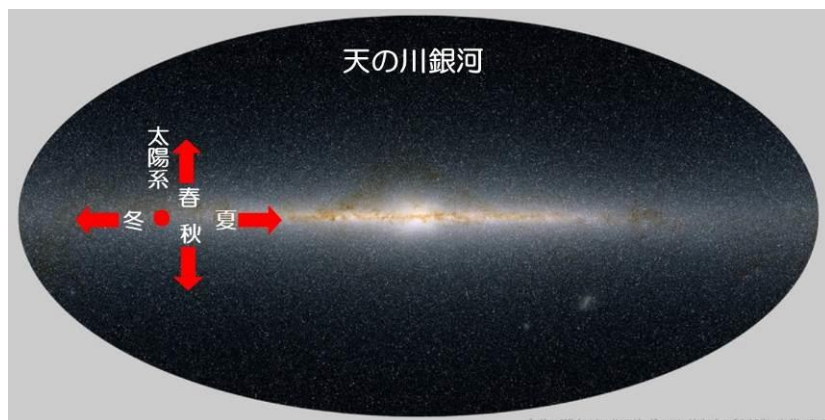
天の川を見よう



まずは実際に天の川を見てみましょう、といってもどこでも見える訳ではありません。見える条件として一番重要なのは、まわりに余計な明かりがない事です。街明かりがない暗い場所で、月明かりがない時に見えるかどうか挑戦してみてください。ちなみに、見てわかりやすいのは、大きな十字が目じるしのはくちょう座のあたりでしょうか。白い雲のようなものが見えたら、それが天の川です。

天の川とは

地球のある太陽系は天の川銀河の中にあります。その位置ですが、中心から2万6100光年の所にあります。夏の星座は銀河の中心方向に見ることが出来ます。そのため、星の数も多く見ることが出来ます。また天の川を見ることは我々のいる銀河を見ることになります。銀河の中心はいて座方向です。ちなみに、冬の星座は中心とは反対方向、銀河の端の方を見ることになります。ですので、夏に比べると淡いですが、冬も天の川を見ることが出来ます。



七夕 ～ 織姫と彦星 ～

7月7日は七夕、年に1度織姫と彦星が会う事を許された日です。実際の星空では、織姫がこと座のベガ、彦星がわし座のアルタイルです。ここで七夕のお話をしたいところですが、少々現実的なお話をしたいと思います。地球からこと座のベガまで25光年、わし座のアルタイルまでは17光年です。では、こと座のベガからわし座のアルタイルはどれくらい距離があるでしょうか。答えは14.4光年。光の速さでも約14年半かかってしまいます。実際には1日で会う事は出来ないのです。現実的にはそうなりませんが、せっかくの七夕です。当日は晴れて、織姫と彦星が天の川で会えるように願いましょう。

